

〔４〕生活圏と生活実態

（１）生活圏とその変化（問16・１～４－SA）

① 通勤・通学圏

- ・ 仕事・通学で町外へ出る人は、「ほぼ毎日」が44.0%で、「週に数回」の14.3%を合わせると58.3%となる。
- ・ 平成16年度調査では、仕事・通学で町外へ出る人は、「ほぼ毎日」が47.8%、「週に数回」を合わせると65.2%で、今回は7%減少している。

② 日用品の購買圏

- ・ 日用品の町内商店利用と町外商店利用を比較すると、「ほぼ毎日」は各々9.3%と14.9%、「週に数回」は各々30.0%と52.5%で、町外商店利用の方がかなり多い。
- ・ 平成16年度調査と比較すると、町外商店利用の「ほぼ毎日」が17.4%から14.9%にやや減少し、町内商店利用の「週に数回」が34.4%から30.0%に減少している。つまり、町外、町内ともに利用が減少し、平成16年度調査でほぼ減少が止まったかにみられた町内商店利用がさらに減少し、これまで増加しつづけた町外商店利用がやや減少している。
- ・ 下植野地区では、日用品の町内商店利用について「ほとんどない」が47.9%（平成11年度調査では10.2%）と多くなっている。
- ・ 70歳以上の高齢者の日用品の町内商店利用は、「週に数回以上」が46.7%で、町外商店利用は「週に数回以上」が50.4%となっている。

③ 病院等の通院

- ・ 「病院等の通院で町外に出る」ことは「ほとんどない（13.7%）＋年に数回（37.7%）」が51.4%で、「月に数回」が38.3%、「週に数回」が6.7%、「ほぼ毎日」が3.6%となっている。
「ほぼ毎日＋週に数回＋月に数回」の推移をみると、平成11年度41.4%、平成16年度45.6%、平成21年度48.6%へと増加しつづけている。
- ・ 70歳以上では「月に数回」が53.3%、「週に数回」が9.2%、「ほぼ毎日」が4.2%で、合計66.7%となっている。
平成16年度調査では「月に数回」が35.7%、「週に数回」が17.4%、「ほぼ毎日」が3.5%で、合計56.6%で、「週に数回」は8.2%減ったが、「月に数回」が21%増えている。

図表４－１ 生活圏とその変化

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんどない	
仕事や通学で町外に出る	52					平成6年度
	47					平成11年度
	48					平成16年度
	44					平成21年度
日用品買物に町内商店を利用	16					平成元年度
	11					平成6年度
	11					平成11年度
	10					平成16年度
	9					平成21年度
日用品買物に町外商店を利用	3					平成元年度
	11					平成6年度
	13					平成11年度
	17					平成16年度
	15					平成21年度
病院等への通院で町外に出る	2					平成11年度
	3					平成16年度
	4					平成21年度

図表４－２ 日用品買物の町内商店利用

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんどない	n
合計	9.3	30.0	27.9	9.3	23.5	505
字大山崎	11.4	32.7	26.7	10.9	18.3	209
字門明寺	8.7	31.4	28.5	8.3	23.1	243
字下越野	4.2	8.3	31.3	8.3	47.9	50

図表４－３ 日用品買物の町外商店利用

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんどない	n
合計	14.9	52.5	27.3	3	3	505
字大山崎	11.8	53.7	28.1	2	3	209
字門明寺	17.1	50.8	27.9	2	2	243
字下越野	18.0	58.0	18.0	4	n	50

(2) 町外への交通手段

① 町外への交通手段（問17 S A）

- ・「自動車」が最も多く48.5%、次いで「鉄道」28.1%、「バス」8.0%、「バイク」7.0%、「自転車（電動自転車を含む）」6.0%、「徒歩」0.8%となっていて、平成16年度調査と比べると「自動車」利用が7%増えている。
 - ・70歳以上の高齢者についてみると、「鉄道」が30.1%で最も多く、次いで「自動車」35.8%、「バス」17.1%、「自転車」4.9%、「バイク」4.1%となっている。
- 平成16年度調査では、「鉄道」が29.3%、「自動車」26.7%、「バス」25.9%、「自転車」6.9%、「バイク」0.9%で、自動車利用が増え、バス利用が減っている。

図表4-4 町外への交通手段（属性別）

	鉄道	自動車	バス	バイク	自転車	電動自転車	徒歩	その他	n
合計	28.1	48.5	8.0	7.0	5.4				505
20歳代	51.2	36.6	4.9	2.4					41
30歳代	26.3	60.5	5.3	7.9					76
40歳代	25.4	53.7	3.1	7.5	9.0				67
50歳代	27.5	55.1	5.8	11.6					70
60歳代	21.0	51.6	8.9	9.7	7.3				124
70歳以上	30.1	35.8	17.1	4.1	3.7	6.5			126

② 鉄道利用者の駅までの交通手段（問16 S A）

- ・「徒歩」48.9%、「自転車（電動自転車を含む）」19.8%、「バス」15.6%、「バイク」8.5%、「自動車」5.0%となっている。平成16年度調査と比べると、徒歩が8.6%増えている。
- ・70歳以上の高齢者についてみると、「徒歩」54.1%、「自転車」18.9%、「バス」13.5%、「自動車」10.8%となっている。徒歩が半数以上で、平成16年度調査と比べる徒歩と自転車が各々4.1%、7.9%増えている。

図表4-5 鉄道利用者の駅までの交通手段（属性別）

	自動車	バス	バイク	自転車	電動自転車	徒歩	その他	n
合計	5.0	15.6	8.5	18.4	48.9	2		505
20歳代	4.8	23.8	23.8	42.9	4			41
30歳代	10.0	20.0	10.0	25.0	30.0	5.0		76
40歳代	5.9	11.8	5.9	17.6	58.8			67
50歳代	36.8	15.8	47.4					70
60歳代	7.7	15.4	15.4	3.1	57.7			124
70歳以上	10.8	13.5	16.2	2	54.1	2		126

(3) 環境に配慮した暮らし（問19 すべて○）

- ・環境に配慮した暮らしとして行なっていることについては、「とくに何もしていない」が1.8%と非常に少なく、環境に配慮した暮らし方への意識が高まっているとみなせる。
- ・493人が累計2293の回答をしており、1人当たり4.7の回答となっている。
- ・回答が多い上位5項目は、「ゴミの分別の徹底」80.1%、「物を大切に使い長持ちさせる」68.9%、「買物袋（マイバッグ）の持参」62.9%、「ゴミの減量化」50.8%、「リサイクルへの協力」46.2%など。

次いで、「省エネ、省資源」35.3%、「節水、雨水利用」24.5%、「自動車の利用やアイドリングを控える」23.9%、「エコ商品の購入」19.5%、「緑化」14.3%。

その他は、「生ゴミの自家処理」9.4%、「LED照明の利用」7.0%、「（地域の）ふれあい朝市の利用」6.6%、「ソーラーエネルギーの利用」3.6%となっている。

- ・年齢別にみると、「ゴミの分別の徹底」「ゴミの減量化」「物を大切に使い長持ちさせる」「リサイクルへの協力」「緑化」などについては、40歳代以上は全般に高い回答率であるのに対し、20・30歳代は全般に低い回答率に留まっている。

「生ゴミの自家処理」については、加齢とともに回答率が高くなっている。

図表4-6 環境に配慮した暮らし

